

キャンドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2016年9月[第76号]



活動の方向性 CHV の活動の活性化に向けた、保健局との協働
 ナイロビ便り ケニアの携帯電話のことく続>

永岡 宏昌
 佐久間 典子



ひと

自己紹介—新理事
 スタッフ
 インターンを終えて

井本 佐保里
 岩崎 敏実
 足立 さち/宇野 由起信

教室の構造補修の工程
 事務局から

写真上：2016年、マラウイで。小さな集落の雑貨屋／下：2012年、ケニアで。開店前のM-PESAショップ

地域保健ボランティア(CHV)の活動の活性化に向けた、保健局との協働

代表理事 永岡 宏昌

当会がマシंगा県で地域保健ボランティアの育成に取り組み始めた2013年10月、ケニア地域保健戦略(CHS)が改訂され、地域保健の担い手の名称を、Community Health Worker(CHW)からCommunity Health Volunteer(CHV)に変更。研修マニュアルが作成され、CHVを取りまとめ、保健活動を指導する地域保健普及官(Community Health Extension Worker=CHEW)が、独立した保健行政職として制度化され、臨床医官や看護官など治療分野と、公衆衛生官や公衆衛生技官など予防分野と共に独立した分野になりました。しかし、マシंगा県保健局へは、CHVに名称変更したとの通達もマニュアルも来ないため、当会では当面、地域保健ボランティアを「CHW」と表記することにしました。また、独立したCHEWは配属されず、地域の既存の公衆衛生技官と看護官とがCHEWを兼任する状況が続いていました。最近になって名称変更が正式に指示され、また、マチャコス地方政府が多くの看護官を採用し、マシंगा県にも20人以上がスタッフ不足のため休止していた診療所などに配属され、住民への保健サービスが始まりました。

当会は、保健局と協働して、CHVの活動の活性化に取り組んできた過程で、保健局

の課題が明確になってきました。

ひとつはCHVにとって診療所が遠いこと。CHVの活動として月に一度、地域保健単位(CHU)内の診療所に報告を持ち寄ります。遠いことが、次第に足を遠ざける原因になります。当会からの働きかけで、CHUに複数の報告する場所を設けることが実現し、新規診療所の開所と合わせて、状況が改善されています。

次に、看護官や公衆衛生技官が、本来の業務にCHEW業務を追加されているため、CHV指導への熱心度に極端な個人差があること。CHVに連絡する携帯電話の代金や報告書のコピー代を自費負担するなど、ボランティア的な関与をする熱心なCHEWもいます。一方、不熱心の背景には、特に看護官の場合、CHEWとして十分な研修を受けていないため、指導に自信がないということもあります。このような状況から、保健局と協働して看護官へのCHEW研修の実施を計画しています。CHSの意義とCHVの役割、具体的なCHVの指導方法を学んでもらいます。CHVの活動により感染症が低減し、診療所での看護官の業務が軽減する、という因果関係を理解してもらうことが、CHVとCHUの活性化につながると考えています。

ナイロビ便り

ケニアの携帯電話のこと<続>

事務局長 佐久間 典子

「ケニアの携帯電話のこと」は、2012年9月発行の会報60号で当時の調整員が伝えました。4年後になって<続>として取り上げるのは、この夏、4年ぶりのケニア出張で、携帯電話について驚き、知ったことがいろいろあったからです。

まず、ひとつの携帯電話でサファリコム社とエアテル社、という異なる会社の2つの番号が持っていたこと。サファリコム社からの通知により、ナイロビ事務所の代表電話としている携帯の番号の再登録の手続きを行なった際に知りました。日本ではドコモに「2in1」というサービスがあるようですが、ケニアではもうひとつはauやソフトバンクにあたる他社なのです。インターンへの渡航準備メモに「ナイロビでの安全対策」として「通信経路(インターネット会社、携帯電話会社)は複数用意」が1台の携帯に入っていることを理解しました(インターネットはまた別の会社を利用しています)。

この代表電話の件の前、ナイロビ事務所ではインターン3人が貸与されている個人用の携帯電話(番号は1つです)の再登録の対応に追われていました。メールのやり取りに出てくる「SIMカード」について、落ち着くまで、わたしは理解不足のままでした。SIMは電話

番号などの識別情報が記録されたICカードで、日本では、特定の通信会社のSIMカード以外は利用できない機能が携帯電話の機器にある、「SIMロック」が主流。一方、ケニアでは通信会社を選ばずに使える「SIMフリー」となっていることが、ようやく分かりました。異なる会社の番号が可能なのわけです。

携帯電話の料金の支払いには、前払いと後払いがあることを知りました。代表電話としている携帯は請求書が届く後払い、個人用は前払いです。出張期間中に使用していた携帯電話に500シリング(約500円)を1回だけ入れました。テレフォン・カードはスクラッチくじのようで、削ると出てくる番号を携帯電話に打ち込むと入金完了です。

そして、サファリコム社の通信回線を使って通貨のやり取りを行なう携帯電話口座、M-PESA(エム・ペサ)—Mobileの「M」、ペサはスワヒリ語でお金—について、少し分かるようになりました。毎週末、ケニア人スタッフ、専門家に交通費・宿泊費を送金するとき、入力ミスをしないう細心の注意が必要なこと。代理店には小さな店(表紙の写真)だけでなく、両替も扱うところ、サファリコム社の直営店、とさまざまな形態があること。送金完了を体験できなかったのが残念です。

活動報告 地域保健ボランティア(CHV)研修の講義の時間割

8月にCanDoは保健局と協働して、5つ目の地域保健単位(CHU)を形成するため、地域保健ボランティア(CHV)研修の1週目と3週目の講義を行ないました*。講師は当会の専門家(以下でC)、保健局からは公衆衛生官(地域保健戦略担当)(PHO)(O)、公衆衛生技官(PHT)(T)と看護官2人(N)です。

* マシガ県イカティニ区イトウンドウイムニ準区とエカラカラ区ズキニ準区の各一部を対象。2週目は担当する村を訪問して情報を収集、4週目は保健施設での実践。

■1週目—8月8日(月)~12日(金)

◇1日目

- ・健康と成長—C
- ・参加型手法—O
- ・リーダーシップ—T

◇2日目

- ・村での必須保健サービス—T
- ・地域戦略の手引き—O
- ・科学的根拠に基づいた計画—O
- ・効果的なコミュニケーション—C
- ・成人の学び—T

◇3日目

- ・年代別の家庭で実践する健康の要点—O
- ・妊娠と出産—N
- ・地域社会と子どものケア—N
- ・病児のケア—C

◇4日目

- ・マラリア—O

- ・下痢—N
 - ・栄養についての概論—C
 - ・栄養不良—N
- #### ◇5日目
- ・はしか他の予防接種が可能な病気—N
 - ・地域の組織、世帯の登録—O
 - ・世帯の登録と地図作り—T

■3週目—8月22日(月)~26日(金)

◇1日目

- ・安全な水の管理—O
- ・コレラ、腸チフス、アメーバ赤痢、ブルセラ症—C
- ・結膜炎、寄生虫病、住血吸虫症—N
- ・傷、へびにかまれたときの応急手当—N

◇2日目

- ・結核の感染、予防と管理—O
- ・HIV感染予防とエイズの管理—N/C
- ・性感染症の感染、予防と管理—N

◇3日目

- ・身体障がい—O
- ・リハビリテーション—C
- ・家族計画—N

◇4日目

- ・モニタリング(観察・記録)と評価、地域保健における報告—O/T/N2/C

◇5日目

- ・報告、モニタリング、記録、登録—O/T/N2/C

ひと 自己紹介—新理事

今年度より理事に就任しました、井本佐保里です。2010年にインターン*として活動に関わらせていただいた後、大学院の研究で同じムンギ東県に通い、小学校の調査に取り組んでいました。

2014年より、大学に勤めながらケニアのムクル・スラム群に通い、教室建設のプロジェクトに携わっています。現在2歳になる娘を連れてケニアでフィールドワークをする日ですが、近い将来の目標です。

CanDoのインターン時の経験、学んだことが、現在の活動の大きな糧になっています。

井本 佐保里

微力ではありますが、CanDoの活動を支えられるように尽力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。(いもと さおり)

* 外務省 NGO インターン・プログラムの業務委託として6月に東京事務所で研修を開始。11月から3か月のケニアでの研修の前、10月のグローバルフェスタ JAPAN 2010では、教室の模型を製作して、教室建設ワークショップを開催。この模型は、骨組みは外れていますが、今年度も活躍しています。(編集部)



写真は2010年撮影

ひと 自己紹介—インターンからスタッフに

調整員 岩崎 敏実

CanDoでインターンとして派遣されたのは、2013年12月からの6か月でした。学校保健を担当し、主に小学校の教員を対象とする研修—ミグワニ県では早期性交渉予防研修、マシガ県ではエイズ教育研修(第1課程)に関する活動—に携わりました。

インターン終了後は、日本の病院で医療ソーシャルワーカーとして働いていました。日本で生活している中で、ケニアでの活動が頭から離れず、2016年1月にCanDoに調整員として戻ってきました。

現在は主に、ケニア人スタッフ、専門家の労務に関する仕事や会計業務等を担当しています。今まで経験をしたことがない分野での仕事で、日々予想だにしていなかった出来事と直面し、悪戦苦闘をしながら毎日を送っています。

まだまだ、どう対応すればわからず、不安に思うことも多々ありますが、これからもみんなの力を借りながら頑張っていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

(いわさき としみ)

ひと インターンを終えて

「ケニアで生きた日々が、くれたもの。」

足立 さち

「アフリカの人々が、ほんとうに求めるものを。」—CanDo ホームページのこの言葉は、私の心をざわつかせた。アフリカの人々がほんとうに求めるものを、自ら選択していくために、私に何ができるか挑戦したい。その思いと共に、2016年1月、私はケニアへ渡った。

現場で施設拡充・環境活動に携わり気づいたこと。1つは、意見を言うとき、しっかりした根拠と強い意志が必要であること。何か起こったとき、村の人との合意内容に沿って、

村の人とどうしていくかを一緒に考えていくためだ。2つ目は、人の話に耳を傾けること。それが、信頼関係に繋がると実感した。

帰国した今、考える。私はアフリカの人々がほんとうに求めるものに寄り添えたのか。正直、答えはわからない。それ以前に目の前のことに必死だった。今言えることは、CanDo がしていること全部信じられるということ。だから、人としてケニアで生きた6か月を絶対無駄にしない生き方をしたい。そう誓い、心地よく悩み苦しむ日々だ。

わからないことだらけで、わかったことは「食事が重要だ」

宇野 由起信

自分の中の食文化を豊かにすること。それが、今インターンを終えて、強く思っていること。私は、2016年1月末から約7か月間*、施設拡充チームでインターンをさせていただいた。この7か月は、仕事と生活が同じ場所。そこで、スタッフ・他のインターンと寝食を共にする。仕事は基本週7日。楽しかった。そんな環境で楽しめたのは、もちろん仲間に恵まれたからだ。それに加えて、食事の重要性に気がついたからだ。仕事とうまく付き合っていくには、食文化を豊かにすること**が、

自分にとっては必要だということを見つけたからだ。7か月間という短い期間では、わからないことだらけだったが、このことはわかった。食事が重要だなんてそんな当たり前のこと...だけど、私にとっては、これは人生を変える、非常に重要な気づきだった。仕事との自分なりの付き合い方。それは、自分の中の食文化を豊かにすること。今、インターンを終えてそんなことを思っている。

* インターン期間を約1か月延長。

** インド系ケニア人の会計士直伝のカレーが得意料理の一つ。
(編集部)

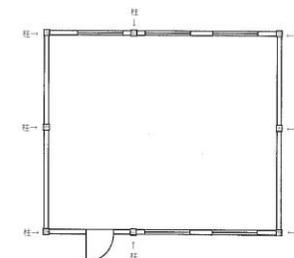
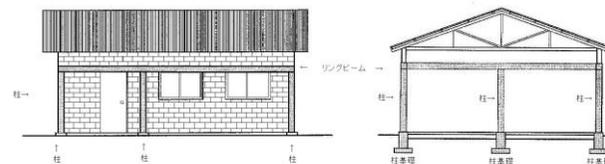
教室の構造補修の工程

CanDoのマシガ県における施設拡充の活動では、老朽化した教室の構造補修に、新規の教室建設よりも多くの小学校を対象として、取り組んでいます。工法としては、鉄筋コンクリートの柱—教室建設では設置していません—とリングビーム(上部の横材)で補強しています。

1. 対象となる教室を解体します。

開口部(ドアと窓)の上辺から上—壁の一部と屋根(組んでいる木材を含みます)—は取り外します。その下の壁は、使える部分を再利用します。

2. 残した壁から、柱を入れる部分を切り取ります。



3. 8か所に柱のための穴を掘ります。

教室の4隅、屋根で上部が三角になる2面の中央、残り2面の開口部間の中央の柱の位置に、柱より大きく四角に穴を掘ります(あとで土を埋め戻します)。

4. 穴に鉄筋を組んで敷き、コンクリートを流します(柱基礎)。

5. 鉄筋コンクリートの柱を2つに分けて設置。まず、柱下部の鉄筋を組み、コンクリートで固めます。



6. 壁(リングビームより下の部分)を再建。再利用する壁に、不足している部分のレンガを加えます。

7. 柱(上部)の鉄筋を組み、コンクリートで固めます。

8. 鉄筋コンクリートのリングビームを設置。

*「リングビーム上の壁を設置」から先は会報73号4~5ページ「図解—教室建設の工程」をご覧ください。

事務局から

報告

◇組織

○7月16日、2016年度第3回理事会を開催。
2016年度前半の活動報告と後半の活動計画案、2016年度1月～6月の東京事務所・ナイロビ事務所の会計状況と7月～12月の資金繰りを確認。第3回預託金について、現在と同額を目標に募集することを決めました。

◇国内活動

○9月10日、JICA 東京で開催された、TICAD-VI 開催記念イベントでの団体紹介ブースに出展。

人の動き

- 6月25日、伏木水紀(ふせぎ みずき)、29日、福井修(ふくい おさむ)をインターンとしてケニアに派遣。
- 6月25日、吉田菜摘(よしだ なつみ)がインターンとしてケニアに入国。
- 6月29日～7月10日、代表理事(兼事業責任者)永岡宏昌がマラウイに出張。
- 7月16日、調整員 岩崎敏実がケニアから

一時帰国。8月16日、再派遣。

- 7月20日、インターン 足立さちが研修期間を終了してケニアから帰国。
- 7月20日～8月21日、事務局長 佐久間典子がケニアに出張。
- 8月14日、インターン 宇野由起信が研修期間(約3週間延長)を終了してケニアを出発。
- 8月19日、永岡がケニアに出張。
- 9月3日、安田詩香(やすだ しずか)をインターンとしてケニアに派遣。
- 9月4日、調整員 橋場美奈がケニアから一時帰国。
- 9月14日、インターン 西村香保が研修期間(2か月延長)を終了してケニアから帰国。

お知らせ

- 10月1日(土)、2日(日) 10:00～17:00
グローバルフェスタ JAPAN 2016 に出展
展示と物品販売、ゲームコーナーを設置。
会場: 東京・お台場センタープロムナード
CanDo のブース: グリーンエリア 12
ウェブサイト: <http://gfj2016.jp/>
■次号は、2016年12月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第76号]

2016年9月28日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室
電話/FAX: 03-3822-1041
電子メール: tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会